

# J.LEAGUE™ NEWS



©J.LEAGUE PHOTOS

昨年に続く開催。Jリーグを代表する選手らがそれぞれの持ち味をピッチ上で披露し、復興支援をアピールした

## 「東日本大震災復興支援 2013 Jリーグスペシャルマッチ」開催

Jリーグや海外のクラブでプレーする選手たちが競演。さまざまな復興支援関連イベントも実施

「東日本大震災復興支援 2013 Jリーグスペシャルマッチ」が6月16日、国立競技場に4万1246人の入場者を集めて開催された。同震災の被災地にゆかりのある選手に、海外のクラブでプレーするゲスト選手を加えた「Jリーグ TEAM AS ONE」チームと、その他の選手で構成された「Jリーグ選抜」チームの対戦で、昨年7月に県立カシマサッカースタジアムで行われた大会に続く2回目。試合はJリーグ TEAM AS ONEが2-1で勝利した。また、スタジアムのコンコースなどでは募金活動や物産展といった復興支援活動に関連したさまざまなイベントも行われ、訪れたファン・サポーターも同活動への思いを新たにした。(2~3ページに関連記事)

### J.LEAGUE™ TOP PARTNERS



J.LEAGUE™  
100 VISION  
PARTNER

J.LEAGUE™  
FAIRPLAY PARTNER

LEAGUE CUP  
SPONSOR

SUPER CUP  
SPONSOR

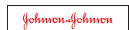
J.LEAGUE™ OFFICIAL  
EQUIPMENT PARTNER

J.LEAGUE™  
OFFICIAL SUPPLIER

J.LEAGUE™ OFFICIAL  
BROADCASTING PARTNER

SPORTS PROMOTION  
PARTNER

J.LEAGUE™ OFFICIAL  
TICKETING PARTNER







勝利を目指して全力プレーで試合を盛り上げた小笠原(右)と田中マルクス闘莉王



松井(右)の同点ゴールを山本が祝福



Jリーグ TEAM AS ONE の逆転ゴールを決める金崎



© J.LEAGUE PHOTOS

今シーズンの得点ランキングでも首位タイの佐藤が Jリーグ選抜の先制点をマーク

# 試合は「Jリーグ TEAM AS ONE」が逆転勝ち

降り続いた雨もキックオフ前には上がり、時折、晴れ間ものぞく中、選手を代表して横浜 F・マリノスのMF中村俊輔の復興支援宣言、仙台市立金剛沢小学校合唱団による国家斉唱、さらに東日本大震災の犠牲者に対する黙とうなどが行われた後に、試合はキックオフ。「Jリーグ TEAM AS ONE」チームが、「Jリーグ選抜」チームを2-1と逆転し、昨年の大会に続く勝利を飾った。

Jリーグを代表する選手たち、そして海外のクラブで活躍する選手たちが競演した一戦は、11分に均衡が破れた。Jリーグ選抜が見事なコンビネーションプレーを披露し、昨シーズンの J1リーグ戦得点王、FW佐藤寿人が決めた。一方、Jリーグ TEAM AS ONEも、FW大迫勇也、ゲスト選手のMF松井大輔が息の合ったプレーを見せ、41分にはゴール前でこのコンビが粘り、最後は松井が同点ゴールを決めた。

Jリーグ TEAM AS ONE の逆転ゴールが生まれたのは70分。MF梁 勇基のパスを受

けたゲスト選手のMF金崎夢生が蹴り込んだ。出場した選手たちがそれぞれの持ち味を発揮した試合に、詰め掛けたファン・サポーターも一体となって楽しみ、全ての選手に温かい声援を送り続けた。Jリーグ TEAM AS ONE のキャプテンを務めたMF小笠原満男は「多くのお客さんが(スタジアムに)入って、素晴らしい選手とともにこういった試合を行えたことが非常に意味深い。Jリーグがこうした形で支援してくれることは非常にうれしい」と、大会開催の意義を語った。



仙台市立金剛沢小学校合唱団がさわやかな歌声で国歌斉唱を行った



中村選手による復興支援宣言



© J.LEAGUE PHOTOS

試合終了後にバナーを掲げて場内を一周

## 参加選手リスト (○: サポーター投票選出選手、□: ゲスト選手)

Jリーグ TEAM AS ONE (25人)	Jリーグ選抜 (23人)
監督 トニーニョ セレーゾ(鹿島)	監督 森保 一(広島)
コーチ 手倉森 誠(仙台)	GK 川口 能活(磐田)
GK 林 卓人(仙台)	○ 楢崎 正剛(名古屋)
曾ヶ端 準(鹿島)	DF ○ 横野 智章(浦和)
鎌田 次郎(仙台)	徳永 悠平(フ東京)
角田 誠(仙台)	○ 中澤 佑二(横浜FM)
岩政 大樹(鹿島)	土屋 征夫(甲府)
西 大伍(鹿島)	○ 田中 マルクス闘莉王(名古屋)
加賀 健一(フ東京) ※秋田県出身	扇原 貴宏(C大阪)
山本 侑斗(磐田) ※岩手県出身	MF 柏木 陽介(浦和)
□ 安田 理大(SBVフテッセ/オランダ)	青木 拓矢(大宮)
MF 梁 勇基(仙台)	ジョルジ ワグネル(柏)
菅井 直樹(仙台) ※山形県出身	稲本 潤一(川崎F)
中田 浩二(鹿島)	○ 中村 俊輔(横浜FM)
○ 柴崎 岳(鹿島) ※青森県出身	石毛 秀樹(清水) ※体調不良で出場辞退
○ 小笠原 満男(鹿島) ※岩手県出身	山田 大記(磐田)
高萩 洋次郎(広島) ※福島県出身	山口 螢(C大阪)
□ 松井 大輔(スラヴィア ソフィア/ブルガリア)	○ 柿谷 曜一朗(C大阪)
□ 金崎 夢生(1.FCニュルンベルク/ドイツ)	FW ○ 原口 元氣(浦和)
FW 柳沢 敦(仙台)	キリノ(湘南)
赤嶺 真吾(仙台)	田中 達也(新潟)
大迫 勇也(鹿島)	○ 佐藤 寿人(広島)
□ 森本 貴幸(アル・ナスル/アラブ首長国連邦)	○ 豊田 陽平(鳥栖)
□ 鄭 大世(水原三星ブルーウィングス/韓国)	森島 康仁(大分)
□ 大津 祐樹(VVVフェンロ/オランダ)	
□ カレン ロバート(VVVフェンロ/オランダ)	
□ 指宿 洋史(KASオイペン/ベルギー)	



2013年6月16日 15:00キックオフ 国立競技場

Jリーグ TEAM AS ONE 2 1 Jリーグ選抜

【得点経過】  
 11分 0-1 (J) 佐藤 寿人  
 41分 1-1 (T) 松井 大輔  
 70分 2-1 (T) 金崎 夢生

【入場者数】4万1246人  
 【主審】吉田 寿光  
 【副審】平野 伸一／金田 大吉  
 【第4の審判員】安元 利充

主催：公益財団法人 日本サッカー協会  
 公益社団法人 日本プロサッカーリーグ  
 共催：一般社団法人 日本プロサッカー選手会  
 一般社団法人 Jリーグ選手OB会  
 主管：公益社団法人 日本プロサッカーリーグ  
 公益財団法人 東京都サッカー協会  
 協賛：株式会社コナミデジタルエンタテインメント／日本郵便株式会社／  
 東京エレクトロン株式会社／朝日新聞社  
 協力：株式会社コナミデジタルエンタテインメント／  
 アディダス ジャパン株式会社／株式会社モルテン

## 大東 和美 Jリーグチェアマン コメント

本日、国立競技場に4万1000人を超える大変多くのお客さまに御来場いただき、心より感謝したい。心配された天候が試合開始直前から回復し、仙台市立金剛沢小学校合唱団の皆さんの国歌斉唱がさわやかな空に響き渡る光景は、とても感動的だった。

前日練習および本日のスペシャルマッチと2日続けて東日本大震災復興支援の募金活動を実施したが、大変多くのお客さまが募金活動にご協力いただいたこと、そして両日とも選手たちが自主的に募金活動に参加してくれたことが、強く印象に残っている。

試合内容は2-1と緊迫したが、前半に出場した選手が後半に再度出場するなど普段見られない一幕もあり、お客さまも楽しんでいただけたのではないかと。リーグ戦とは異なり、どちらか一方のチームを応援するというのではなく、スタジアム全体が「純粋にサッカーを観戦する」という雰囲気だ、「こういうサッカーの楽しみ方もある」ということが伝わったのではないと思う。

キックオフ前の中村俊輔選手の復興支援宣言の中に、「決して忘れない」という言葉があった。これは、Jリーグが

東日本大震災復興支援を継続する上でとても大切にしている思い。Jリーグは、Jクラブとともに、これからも東日本大震災復興支援活動を継続していく。



選手たちを激励に向かう日本サッカー協会名誉総裁の高円宮妃殿下を先導する大東チェアマン

# 前日練習&多彩なスタジアムイベント

国立競技場のコンコースなどでは、さまざまなイベントが行われ、応援するチームのレプリカユニフォームを着たファン・サポーターらでにぎわった。各所で実施されたJリーグ TEAM AS ONE募金では、Jリーグ名誉女子マネージャーの足立梨花さんもゲスト参加。集まった募金はJクラブ、Jリーグが行う東日本大震災の被災地支援活動の原資となる。また、「東北人魂ブース」では、出場選手による募金活動

も行われた。

「美味しく食べて、応援しよう！」日本郵便東日本大震災復興応援物産展では被災地の物産品の販売、試食を実施。東北ご当地グルメの販売では、牛タンカレー、牛タン丼などが人気を集め、食欲を誘うのに前に長蛇の列ができた。Jクラブ・選手による東日本大震災復興支援活動写真展は、昨年の大会に続く実施。Jリーグトップパートナーである

キャノンマーケティングジャパン株式会社の協力により、日本プロサッカー選手会が実施した復興支援活動の様子を紹介。adidasブースでも選手たちが参加してイベントが行われた。

試合前日には国立競技場で公式練習が行われた。練習の前後には、両チームの選手たちも参加して募金活動を実施。翌日の試合時と合わせ、Jリーグ TEAM AS ONE 募金に285万9451円の協力をいただいた。



Jリーグ名誉女子マネージャーの足立さんも募金に協力



東北人魂ブースには岩手県出身の若清水 梓選手(日テレ・ベレーザ)の姿も



試合前日の公式練習にも熱心なファン・サポーターが足を運んだ



被災地の物産品を販売。試食も行われた



Jリーグ百年構想メッセンジャー、Mr.ピッチのたすきもスペシャルマッチ仕様に



試合前日に行われた募金活動に参加した選手たち



試合当日にはヤマザキナビスコのコーンチップ(しお味)が先着1万人にプレゼントされた



復興支援活動の様子を伝える写真展にも多くのファン・サポーターが訪れ、熱心に見入っていた



adidasブースではスペシャルマッチ関連のウェアなどが販売され、選手たちが参加したイベントも行われた





## 2013 Jリーグ ヤマザキナビスコカップ

## 決勝トーナメント組み合わせが決定

Jリーグは5月30日、2013 Jリーグヤマザキナビスコカップのオープンドローを実施し、決勝トーナメントの組み合わせが右表のように決定した。決勝トーナメントは、ホーム&アウェイによる準々決勝(6月23、30日)でスタート。予選リーグを勝ち抜いた鹿島アントラーズ、川崎フロンターレ、横浜F・マリノス、セレッソ大阪と、AFCチャンピオンズリーグ2013出場のため決勝トーナメントからの出場となったベガルタ仙台、浦和レッズ、柏レイソル、サンフレッチェ広島を加えた8チームによって争われる。

また、決勝は11月2日(土、キックオフ時刻未定)に国立競技場で開催されることも決まった。



鹿島の柴崎(右)と横浜FMの齋藤が互いの健闘を誓う

### ■2013 Jリーグヤマザキナビスコカップ 決勝トーナメント 組み合わせ

※表の左側のチームをホームチーム扱いとする(表の右側のチーム：第1戦ホームチーム/左側のチーム：第2戦ホームチーム)



### オープンドローに参加した各チームの選手コメント

- 鈴木啓太(浦和)  
「攻撃的な選手が多いセレッソ大阪が相手ということで、とても難しい試合になると思う」
- 柿谷曜一朗(C大阪)  
「僕はタイトルを取ったことがないので、チャンピオンの気持ちを知りたいが、まずはベスト4へ、目の前の試合に集中したい」
- 赤嶺真吾(仙台)  
「恐らく難しい戦いになるが、1試合1試合を大切に、自分たちのサッカーを表現できればと思う」
- 大島僚太(川崎F)  
「初戦で先制点を取ることが一番大切。フロンターレは準優勝が多いので、今回はタイトルを取りたい」

- 大谷秀和(柏)  
「柏はヤマザキナビスコカップ決勝には(1999年以来)行っていないので、こしは何とかタイトルを取りたい」
- 千葉和彦(広島)  
「柏は隙を見つけて一発でゴールを決めることができる選手がいる。試合終了まで、気を抜けない」
- 齋藤 学(横浜FM)  
「鹿島はゲームを運ぶのがとてもうまい印象。昨年、決勝まで行けなかったので、タイトルを取りたい」
- 柴崎 岳(鹿島)  
「相手がどのクラブでも、鹿島のサッカーをすることが大切。(ホーム&アウェイの)2試合でしっかりと結果を残せるようにしたい」

## 新たに2カ国のリーグとパートナーシップ協定を締結

Jリーグは5月24日にカンボジア国リーグを運営しているカンボジアサッカー協会と、また6月5日にはシンガポールリーグ(Sリーグ)を



サオ ソカ会長(左)と握手を交わす大東チェアマン

運営しているシンガポールサッカー協会と、それぞれパートナーシップ協定を締結した。海外のプロリーグとの同協定締結は、昨年のタイ、ベトナム、ミャンマーに続き、計5件となった。

Jリーグとこれらの国々のリーグは、提携をきっかけとして相互のフットボール発展のためのコミュニケーション、マーケティング、大会運営、アカデミー、選手の移籍など、さまざまな分野で協力を行い、プロリーグの組織、マネジメントのクオリティー向上と効率化を目指す。

Jリーグの大東和美チェアマンはカンボジアでの協定締結後、「今後、競技面、運営面、ビジネス面と、あらゆる分野で協力してい

く」と語り、同国サッカー協会のサオ ソカ会長は「国の発展のためには、若者の健全な精神と肉体が大事。Jリーグとの提携では、特に若年層の育成に力を入れたい」と期待を込めた。

一方、ベトナムの国営テレビ局VTV系列のケーブルテレビであるVTVcab社(VIETNAM TELEVISION CABLE CORPORATION)が運営する、Bongdaチャンネル・Thethaoチャンネル(ケーブルテレビ)で、ことし7月より、J1リーグ戦の放送を開始することが決定した。ベトナムでは昨年よりVTC社での放送も継続実施しており、これでVTVcab、VTCの2局で放送が実現することとなる。

## SAMURAI BLUE (日本代表)の FIFAワールドカップ5大会連続出場が決まる

### 大東和美 Jリーグチェアマンのコメント(一部)

「5大会連続でのFIFAワールドカップ出場を実現したことは、1993年にJリーグがスタートした20年前から考えれば、夢のような偉業。日本代表は、FIFAワールドカップでの優勝を目指して戦う。その大

きな目標をかなえるためには、Jリーグが世界のトップリーグでなければならない。Jリーグは多くの子どもたちの夢であり、その夢は日本代表へと続いている。Jリーグも新たなチャレンジをしていく」



本大会出場権獲得を喜ぶ選手、チームスタッフ

